

まちづくり提言の公表（令和４年９月受付分）

※回答内容は、回答した当時の内容を掲載しています。

件名	ご意見の内容（一部を要約しています。）	回答内容（一部を要約しています。）	担当課
若者が溢れる街にするために	私は徳山大学公立化には反対でしたが、周南公立大学が走り出した今、発展してもらいたいので協力したいと思います。 周南市街が若者には魅力が無いので、市長が言っておられた、若者が溢れる街は困難だと思います。そこで、学部の一つを街中に移転したらいかがですか。市街地活性化のために現在建築中のビルの中に学部を一つ移転すれば、若者の姿が街で見られるようになるでしょう。岐山通りの中央図書館の隣に使われていないビルがあります。それも活用できませんか。	周南公立大学では、令和６年度に予定している情報科学部の設置に先駆けて、令和４年９月１日、大学内に「地域ＤＸ教育研究センター」を設置されました。 このセンターでは、地域のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）化推進拠点施設として、企業や行政機関、農林水産業者等が持つ課題について、データを収集・分析し、解決策を見出すことや社会人向けのデジタル知識習得支援の実施等を予定されています。このセンターは、令和５年４月に利便性のよいＪＲ徳山駅周辺にサテライトオフィスを設置する予定としており、駅周辺に大学の施設が設置されることによって、教員や学生、市民が行き交い、中心市街地の賑わい創出にもつながると考えております。 また、ご提案いただいた、中央図書館の隣のビルは、旧勤労福祉センター・徳山勤労青少年ホームのことかと存じますが、この建物につきましては、現在、市教育委員会において、駐車場不足の慢性化が課題となっている中央図書館の駐車場として活用する方向で検討が進められております。	企画課
古川跨線橋大規模更新事業 ３月の北側橋梁撤去工事に関して	道路課 > 古川跨線橋大規模更新事業のページで3/16更新分には「長さ41.8m、幅13mの橋に手延べ桁を取り付けて、そのままの形でスライド移動させて北側に引き抜くという、全国的にも事例の少ない工法を採用」「闇夜にライトアップされた重さ500tを超える巨大構造物を、１分間に１mの速さでスライドさせ、２夜間、合計３時間にも及ぶ歴史的な撤去作業を数分にまとめたタイムラプスでお届け」となっておりました。そのような映像ならば市ホームページトップページに特別リンクを設定し誰でも検索等せずすぐに確認鑑賞できるようにすべきではないでしょうか。 徳山駅周辺の大規模開発＝大規模解体工事も、かなり「面白い」映像が取れた（定点観察等）と思うのですがその様なページも市ホームページ上には見当たりません。市として市をアピールする機会を多大に損失しているように感じます。	ご意見いただいたように、古川跨線橋の撤去作業の映像については、全国的にも事例の少ない珍しい工法で施工を行っているため、道路課内のページで動画をアップし、ご紹介をさせていただいております。 周南市ホームページのトップページには、新型コロナウイルス感染症関連情報やＰＣＲ検査等のご案内、ワクチン接種、防災情報などの急を要す情報を主に目立つ場所に配置しています。なお、古川跨線橋大規模更新事業の情報については、ページ更新時に「新着情報」で確認ができるようにしておりますので、ご理解の程よろしく願いいたします。 同様に、徳山駅前地区の市街地再開発事業につきましても、中心市街地活性化推進課のページに本事業の施行者である「徳山駅前地区市街地再開発組合」の外部ページリンクを公開しており、工事の進捗状況についても写真が掲載され、随時更新されておりますので、ご確認の程よろしく願いいたします。 引き続き、工事を円滑に進め、一日も早い完成を目指してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。	道路課、中心市街地活性化推進課
乳がん検診について	広報「しゅうなん」の乳がん検診を見てご連絡しました。乳がんは「30代後半から罹患率が急増」、また「30～64歳では、女性のがんによる死亡数の第１位」との説明書きがありますが、どうして検診自体は40歳からなのでしょう。子育て世代で、症状もないのに自身にお金を使うことは難しい年代かと思います。せめて35歳からを補助の対象にすべきだと思います。「国が40歳以上の検診を推奨しているから」といった理由ではなく、本当に市民を守りたいのなら罹患率や死亡数といった数字を見て決めてほしいです。	がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らすことです。また、ご意見いただきましたように若い年代からがん検診に関心をもっていただくことは大変重要と考えます。市が実施する乳がん検診は健康増進法に基づき実施していますが、対象者につきましては、国の「がん検診のあり方に関する検討会」におきまして、がんの罹患状況等様々な実績をもとに検討されて現在の指針が示されております。 本市としましては、市の年代別の死亡状況等やマンモグラフィ検査を実施する場合の放射線被爆の不利益や30代の方の乳腺は高濃度乳房と言われ、密度が高く擬陽性率が高くなるなど指摘されている事項など、国の検討会の状況等を注視していきたいと考えます。ご理解いただきますようお願いいたします。	健康づくり推進課